

日本科学未来館 総館長

石田 寛人



日本科学未来館は、設立されてからの約6年間、大勢の方々をお迎えして、先端科学技術の現状に触れて頂くとともに、科学と人類の未来に思いを馳せて頂きました。これまでの歩みを踏まえ、今後、科学技術に対して、ますます多くの皆様から関心をお寄せ頂くよう、魅力ある展示を目指して努力してまいります。

未来館は、館内の展示だけではなく、館外でも多様な科学技術理解増進活動を展開しており、世界の多くの科学館と連携を深めています。このような活動を通じて、第三期科学技術基本計画に示された大切な任務を達成していきたいと存じております。

未来館は、平成19年4月に、トップマネジメントを除く館の日常的な運営業務のほぼすべてを競争入札により外部に委託しました。これは、より効果的、効率的な館務の遂行を目的としたものであり、所期の成果を挙げるべく館員一同覚悟を新たにしております。

皆様のひきつづきの御支援、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

日本科学未来館 館長

毛利 衛



平成18年度の日本科学未来館は、17年度にスタートした未来館ブランドプロジェクトを進めるとともに、三つの企画展の開催、常設展示の大規模な改修などを行い、前年度を上回る約78万人のお客様をお迎えすることができました。10月には民間から副館長を迎え経営の効率化にも着手しました。さらに企業とのパートナーシップについても大きく前進することができた年です。また、中国、メキシコに続いてポーランドとオーストラリアにも企画展を巡回、南極観測50周年を記念したイベントでは、ライブ中継で南極と3カ国を結んだ実験イベントを行うなど、活動の領域は国際的に広がってきています。

科学を文化の一つとして社会と共有するという未来館のコンセプトは、世界中でますます重要になってきました。アジアにおいては科学技術が、社会を豊かにする最も重要なツールとして活用されはじめています。19年度の未来館はアジアの国々とも協力しながら、世界に広がる活動を展開していきたいと考えています。